

※新聞記事のレイアウトを変更しております。

【質問】 日本の死因統計はどうやって行われているのでしょうか。
(45歳、会社員)



死因統計

【回答】 死因統計は死亡

診断書（死体検案書）を用いて行われます。死亡診断書には最も死亡の原因となつた傷病名を医学的因果

死亡診断書もとに判断

「不詳」も多く
究明不可欠

関係の順番に記入するI欄と、直接に死因には関係していないが、I欄の傷病名等の経過に及ぼした傷病名等があればそれを記入するI欄があります。原則としてI欄の最下段に記された傷病名を死因統計上では原死因とします。

しも簡単なものばかりではありません。むしろ最近では病気の経過が長く複数の

「死因究明等の推進に関する法律」を制定。14年には「死因究明等推進計画」を閣議決定し、その充実に取

因はS字状結腸がんからの転移性肝がんであった場合I、欄の一番上には肝不全、その下には転移性肝がん、そしてその下欄にはS字状結腸がんと記載され、統計上の死因は最下段に記されたS字状結腸がんが用いられます。

病気を併発し病態も多岐にわたるなど、傷病の経過を順に記すことが難しい場合も増えてきました。判断は医師によりさまざまで、統計に使われる原死因の記入が異なる場合もあります。

最近では孤独死が増えてきます。この場合、警察などが死体を取り扱いますが、

かしそれだけでは死因の正確な特定は困難で「死因不詳」とする場合があります。不確実な死因究明は犯罪の見逃しにもつながり、遺族にとつては悲しみがより深くなり

「死因究明制度は諸外国に比べ、必ずしも十分とはいえ、政府は2012年、

質問をどうぞ

この欄では県医師会が医療制度全般の質問にお答えします。質問希望の方は知りたい内容を分かりやすくまとめ、〒852-8601、長崎市茂里町3の1、長崎新聞社生活文化部「医療制度Q&A」係までお送りください。不明な点をお聞きする場合がありますので住所、氏名、年齢、性別、電話番号を明記してください。なお、直接本人への回答はいたしません。

(県医師会)